

2023（令和5）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492600919	事業の開始年月日	平成25年8月1日
		指定年月日	平成25年8月1日
法人名	株式会社エクシオジャパン		
事業所名	アクア淵野辺グループホーム		
所在地	(252-0202)		
	相模原市中央区淵野辺本町2-19-14		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和5年10月20日	評価結果 市町村受理日	令和6年5月8日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・ covid-19の為に外部との関係が薄れていましたが、5類になってからは入居者がご家族との交流を持てるように少しずつ変化を起こしています。第三者の方との関わりは本社からの許可がまだ下りていない。・開設10年になったが比較的綺麗な環境を維持出来ているかと思う。・最低でも一ヶ月に一度は季節の行事や2フロア合同での大型レクリエーションの提供が出来る様に努めている。誕生日がある際にはそれぞれでイベントを開催している。・系列施設での人材不足にもヘルプで行ったりなども頑張っている。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和5年12月13日	評価機関 評価決定日	令和6年4月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、JR横浜線「淵野辺」駅北口より徒歩約20分の国道57号線に面した所にあります。建物は木造2階建て、1、2階使用の2ユニットのグループホームです。
<優れている点>
法人の研修委員会作成の研修計画に基づき事業所内外の各種研修を実施し、職員の資質向上を図っています。事業所内研修の講師は職員の交代制で実施しており、職員の問題意識向上を図っています。受講者が提出する研修報告書は法人役員にも回覧しています。研修担当課長が一人ひとりの報告書にコメントしてそれぞれにフィードバックし、職員のモチベーションアップに繋がっています。また、職場環境は、チームワークが良く職員同士が話しやすい環境にあり、支援に関しても意見を出し合い「利用者の出来ることを助ける」のではなく「こうしてみたら」という声掛けをし、利用者の出来る能力を活かす支援に取り組んでいます。
<工夫点>
終末期の利用者の入浴にも、エアマットを使用するなどの職員からアイデアを活かしシャワー浴を行っています。職員全員で協力し合い、出来る限り利用者の要望に応えるよう務め、家族から喜ばれています。また、退院後のADL（生活動作）が低下した利用者にも無理のないようリハビリを計画し、車いす使用の生活にならないように職員で話し合い支援に取り組んでいます。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	アクア淵野辺グループホーム
ユニット名	1階ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
		レ	3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
		レ	3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	レ	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		レ	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
		レ	4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	レ	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	レ	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
		レ	3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
		レ	4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
		レ	3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		レ	2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	レ	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	レ	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	エクシオジャパンとしての理念とは別にアクア淵野辺グループホームとしての理念を掲げています。また、朝礼で唱和をし日々忘れないように心がけています。ただ、利用者様と職員に向けた文言で地域密着への文言はないです。	事業所独自の理念「尊厳・笑顔・向上心」を事業所内に掲示し周知を図ると共に、毎日の朝礼時に職員が交代で音頭を取り唱和し、共有しています。利用者一人ひとりの出来ること、持っている能力に注目し、それを活かせる支援を心掛け実践しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍でなかなか地域との繋がりを持つ事が難しかったですが、5類となった今少しずつ地域との関係性を再び取り戻せる様に励みたいと思います。9月から管理者が変更となり、考え方も違う為、前管理者よりレクリエーションに力を入れる動きになった	コロナが5類に移行し、自治会行事も再開しつつあります。自治会長や長寿会会長、民生員から各種の行事案内や誘いがあり事業所としても積極的に参加の意向です。4年ぶりの開催となった地元日枝神社の「山王まつり」への誘いがあり参加し交流しています。	地域の一員として、今後再開される地域行事に積極的に参加し、地域交流をさらに深めて行かれることが期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	開設10年を迎えましたが地域の方への認知症の方への理解が広まっているかという、広まってはいないと感じます。地域包括や社共さんと連携してオレンジキャラバンの会場に実際に出向いて認知症当事者と関わりが持てたりしたらいいですね		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	昨年まで書類でのやり取りでしたが、今年の(2023)8月より、事業所内にて開催する事が出来てました。民生委員や自治会の方も参加している為、イベント等の情報共有を行えるよう図っています。	コロナ禍により書面開催であった運営推進会議は、本年度第2回目から対面開催としています。自治会長、長寿会会長、民生委員、大野北第一高齢者支援センター職員等の参加のもと実施しています。事業所活動への質疑応答、地域情報の交換、行事案内などがあり、運営に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	主として管理者が行っていますが、入居している方には生活保護の方も多くいる為、生活支援課との情報共有を頻繁に実施しています。	介護保険認定更新手続きや事故報告書、運営推進会議議事録提出で行政の担当部署とは連携を取っています。生活保護受給者が多くいるため、生活支援課と連携し相談、アドバイスを得ています。ケースワーカーも来訪し協力関係を築いています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	法定内研修を通した学びの機会を設けると共に、3か月1回身体拘束防止委員会を開催し日々研鑽をしています。センサーマットを使用していた方の生活リハ・運動リハの結果ADLが向上した為、1名ですが外す事が出来ました。	身体拘束廃止・高齢者虐待防止委員会、研修を定期的実施し、身体拘束や虐待の有無を確認しています。防止に向けて各フロアで拘束や虐待が行われていないかをチェックすると共に「これはどうなのか？」と疑問に感じたことが起きた時には「ヒヤリハット」として取り上げ検討することにしてしています。	自己点検シート（チェックリスト）等を活用し虐待防止に役立てられることも期待されます。
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法定内研修と共に、管理者と各フロアのリーダーが中心となって、虐待がないように日々研鑽していますが、身体的なものではなくても、精神的な物やスピーチロックのように感じる時はある為、職員一人ひとりの価値観や人間性の違いも視野に入れて取り組みたい。	スピーチロックについてフロア会議やリーダー会議で検討、確認し注意しています。職員に不適切ケアがあった時はリーダーや管理者が注意を促すようにしています。毎年法人が職員のストレスチェックを実施し、本人にフィードバックし精神的なフォローをしています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人・保佐人の制度を利用している入居者がいますが、職員がどこまで把握しているかは不明で、管理者の仕事となってしまう風潮がある為、一度、勉強の機会があってもいいかもしれない。と記入している私もケアマネのテキスト範囲くらいの知識		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者や各フロアのリーダーを中心にご家族様のケアに当たっています。来年には介護保険法の改定もあり、説明事項も増えるかと思う為、いち職員としても3年に1度は勉強する機会を設けてもいいですね		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	電話や面会時にご家族からのニーズに対して、フロア会議等で検討し極力お力になれるように支援しています。ご家族と入居者本人との意見の違いがある時には慎重に行っています。	家族の面会時や電話で意見や要望を聞くようにしています。感染症対策としての制限をした上で、面会は本年8月から再開しています。家族から、利用者との外食や外泊についても相談がありますが、慎重に検討しています。ご意見箱を玄関ホールに設置しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的に面談の場を設けたり、立ち話的に気軽に話ができる雰囲気が出来ています。	管理者も、フロアミーティングやリーダー会議に参加し、日頃から職員とコミュニケーションを取っています。意見や提案を聞き、運営に反映させています。年2回、個人面談の機会も持ち意見や要望を聞いています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者の変更により、なんともいえないですが、急な休日出勤や残業手当等の対応は積極的の本社に掛け合ってくれています。	人事考課や個人面談を行い資格取得を勧めモチベーションアップに繋げています。業務都合によるサービス残業をなくしています。本部役員が毎週来所し、職員や利用者へ声掛けし現場を把握しフォローしています。職員用休憩室、ロッカー、トイレを設置しています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	本社の教育委員会が中心になって研修会を開いているようですが、参加者には不満が多々ありそうです。カナテクカレッジなどへ希望者が自由に参加できると良い。	年間研修計画に基づき研修を行い、受講者は研修報告書を提出しています。事業所内研修では職員が交代で講師になり実施し、職員のスキルアップにつなげています。新入育成は法人と連携を取り、能力に応じたOJTで行っています。外部研修受講時は費用補助があります。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	各事業所レベルでは他の介護事業者とかかわる事は少ないです。本社の代表が行っているとは思いますが、情報は来ない。アクア淵野辺としては新管理者がグループホーム連絡会へ今度始めて参加する予定はある。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	介護支援専門員を中心に、利用者と家族のニーズに寄り添えるように努力しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	主として上記と同じだが、「本人には知らせないで欲しい」といった内容もある為、困惑してしまう事もある。要望には応えるが本当にそれでいいのか、任せきりで面会にも来る気が無いのでは？と感じる家族もいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	初回面談時や契約時、実際に入居されてから、本人のADL等を確認し事前調査や紹介状では分からない所を実際に確認してから、本当に必要なニーズの支援ができるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ホテル化になってしまっている面がある為、現状厳しい。「要介護状態になっても、その有する能力を生かして」という介護保険法の文言の部分職員と再確認し脱ホテル化を目指し、自立支援しかり、利用者同士の協力がある生活を目指し改革していきたい。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	16にも記載したが関係を築く事が難しい家族もいるが、リーダーを中心に積極的に家族にも参画してもらえらる機会を作っている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居の際には、ご家庭で使っていた家具等も持ち込んでもらったり、希望者には電話や文通などで馴染みの方との関係性が途切れないように努めています、現状は認知症も進み減ってきている。	面会は、時間の制限はありますが8月から再開しています。友人の来訪時は居室での対応です。再来訪をお願いし関係が途切れないよう支援しています。電話があった時には本人に確認し取り次いでいます。以前から囲碁が趣味の利用者の継続支援をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気の合う利用者同士が近くで過ごせるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	施設長が変わる前や少し前の家族によっては退去後や逝去後にも電話での相談やグリーフケアを行っていたが、現在は転居や逝去された家族からの連絡はないのとコロナ禍の影響もあり気軽に交流が出来ない風潮になっている気がする。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	出来るだけ要望に沿った介護支援サービスを提供できるよう努めています。	日々の生活の中で利用者の発する言葉や表情、行動から思いや意向を把握する様に努めています。意思疎通の困難な利用者は入居前に家族からの情報を集め、利用者がその人らしく暮らし続けられるよう支援を行っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	今までの生活歴を聞いて情報を集めを行い。支援に活かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	介護記録を残し、カンファレンスでサービスに繋げるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	入居者本人や家族からの要望を聞き、ケアプランに反映できるように努めています。	日々の様子を個人記録に書き込み、利用者の思いや意見を反映しています。利用者がよりよく暮らすための課題やケアのあり方についてフロア会議で話し合っています。利用者、家族の要望や変化に応じて見直しを行い、現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録を確認し、申し送り事項等を共有する事でチームケアに活かせるように努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	状況の変化に応じ、ご家族様に相談したり、話し合う事で個別ケアとして対応出来る様に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	生活保護を受給している方、後見人や保佐人がいる方など様々な方が入居している中で、必要時には連携を取ったり、地域支援課や包括支援センターとの連携を図り日常生活が送れるように支援している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	家族の生活状況や入居前の状態、前施設での事を踏まえて、淵野辺総合病院とつばさクリニックの2つ訪問診療を柱として、月2回の定期訪問診療や臨時往診、電話での相談等を活用して、適宜、医療支援が受けられるように体勢を整えている。	ユニットごとで異なる協力医療機関が月2回訪問診療を行っています。歯科医も異なる医師が週1回訪問し口腔ケアを行っています。訪問看護師が週1回訪問し利用者の健康管理を行っています。他の医療機関の受診は基本家族が行いますが、突発的な場合は職員が対応しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	エクシオジャパン所属の看護師が週に1度、来設する為必要時に医療的ケアを実施して貰ったり、介護的ケアにも参加して貰っている。またQ30にも関わってくるが嘱託病院の看護師とも電話相談をする事がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には家族や後見人等に中心に立ってもらい、病院との情報共有やケアマネへの情報提供をして、円滑に対応できるよう努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居契約時に重度化・医療ケアが常時必要な状況、終末期等の説明を行い理解してもらえるように努めている。	定期的に協力医や家族と話し合い、事業所で出来る終末期のケアを十分に説明し方針を共有しています。終末期ケア専門士の資格を取得した職員がおり、利用者・家族が安心して納得した終末期を迎えられるように看取り体制の充実を図っています。	新入職員や技能実習生職員のためにも、利用者の重度化や看取りについての研修を改めて行い、職員の不安をなくし、共通認識を持たれることが期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	各フロアにマニュアルを掲示する事と共に研修を実施。理解不足の事については相談したり、調べるよう努めている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	法定内研修において避難訓練を実施しているが、実際に一時避難場所(近所の公園)や避難所(近隣の小学校)まで避難をしてみた事はない。実際に避難所まで行く事を想定すると少なからずトリアージをする必要がある。職員の緊急連絡網も震災時に機能するか不明	年2回避難訓練を行っています。夜間を想定した避難訓練では「見守り」「夜勤」「待機場リーダー」など役割を決め実際に起きた場合に備え真剣に取り組んでいます。職員は災害時に備え毛布を利用した担架の使用方も身に付けています。防災備蓄用品は備品台帳で管理しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉使いや声変えの方法に注意をするように努めているが、認知症という疾患の関係上、利用者同士のトラブルや危険行為に関しては、尊厳や誇りは関係なく注意・指導する事は必要悪と考える。	接遇・マナーの研修を行い、職員は利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない支援を行っています。トイレ誘導の声掛けにも配慮しています。職員同士が何でも言い合える関係で、プライバシーを損ねる声掛けをした場合には、互いに注意し合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の会話の中でヒントを見つけだし、支援に活かせるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員によっては業務優先をしてしまう人もいる為、一番難しい課題である。個別ケアはあまり出来ていないように感じ、一日の流れがどうしても固定化している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	支援が必要な方には一緒に選択できるように支援をしているが、意思疎通の厳しい方には職員が想定意思決定支援として季節にあった服装を選んでいる。自立している方は自由に行っているが真夏にコートを着たりした際には助言を行っている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	コロナ禍で調理は職員のみで行っていたが5類になった頃で少しずつ、共同生活らしい雰囲気に戻せるよう自立支援や家事等への参加誘導を図っている。ただ、グループホームらしからぬ介護度3～5の方も多いため参加者は限定されてくる。	食材は2ヶ所の業者でフロアごと交互に利用しています。利用者は出来る範囲で手伝いをしています。行事食を業者のメニューから利用者の好みに合ったものを選び提供しています。毎月の誕生会や、夏祭りでは利用者も一緒にお好み焼きを作るなど利用者が楽しめるような企画もしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分と排泄の表を活用し、ユニット内9名全員の情報の習得と管理ができるようにしている。栄養バランスに関してはタイヘイ食品や大和食品の管理栄養士が計算/設定をしていると思うが、実際には偏食が多い為どの程度の栄養素を摂取出来ているかは不明		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアを促し自分でするように促している。自力でできる方に関しても「やったつもり」で終わっている事がある為定期的に支援に入る様努めている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	日中の排泄パターン等の確認は比較的に簡単に行え、自発的にトイレに向かう方の軽支援となっているが、夜間に関してはどうしても夜間の排尿が多いのと夜勤者によって一回数のパット使用量がバラバラにはなっている。	排泄記録表で個々の排泄パターンを把握しプライバシーを損ねない配慮をトイレ誘導を行っています。トイレまで自分で歩行できる利用者には見守りや一部介助などで自立に向けた個々の排泄介助を行っています。夜間起きることの嫌がる利用者にはオムツを使用するなど本人の意思を尊重しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	Q41でも回答したが他者の管理栄養士がバランスの食事提供を提案しているが、偏食や慢性的な便秘症などもあり、薬物療法が中心となっている。医療陣とも連携し運動療法や起床時の冷たいお水の摂取等で排便が促せる様努めている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	法律で定められた最低限の週2回が現状いっぱいいっぱいとなってしまっているが、入浴の時間が楽しみの1つになるように心がけている。毎日とか入れるくらい余裕の職員数になれば最高ですね。	機械浴を完備し利用者は週2回午前中に入浴しています。ラジオを聞きながらの入浴など利用者もいます。終末期の利用者には、浴室にエアマットを敷き、仰臥位（横たわっている体位）でシャワー浴を行い清潔保持に務めています。個々に応じた入浴方法を工夫しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	午睡を取る方、フロアでのんびりとする方、居室で好きなテレビ番組を見る方、思い思いの過ごし方をしています。時には夜間に眠れない時もあるが昼間に寝れたりしているので、臨機応変に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	全てのスタッフがすべての利用者の内服薬の効能等は把握しているとは到底思えないが、個人個人の居宅管理指導書や薬情は常に保管してあり、必要時に確認し対応できるようにしている。拒薬ぎみの方には心臓の薬と伝えたり、不穏時にプラセボ対応の方もいる		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入居者の多くが女性な事もあり、家事等は体調を見ながら任せる事ができるよう図っている。嗜好品に関しては家族の協力の上で実施しているが喫煙や飲酒等はしていない。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している。	あまり外に行きたいと動く入居者が現状いない。せん妄や妄想で外に行こうとする時はあるが、大体、早朝や夜間の事が多い為、その時に「行くか!」と希望に沿う事は現状出来ていない。	日常的に散歩に出かけたり、個々の要望に応じて近くへの買い物に出かけています。花見には相模原公園や相模原市役所方面に出かけています。人の多いところは避けて、町田ダリヤ園、薬師池公園に事業所の車で出かけています。キャンプやバーベキューの計画もあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	勘定面もしっかりとしている方も中にはいるが、本社/施設の方針で、本人に現金を持ってもらう事は控えさせてもらっている。物品購入等は家族や後見人、保佐人を通して行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望時には電話をかけられるようにはしているが、家族側の都合と会わず普通で終わったり、実際に連絡が取れたとしても電話での会話が難しくなっている。手紙を書こうとする方も現在いない為、家族との連絡は職員が行っている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	基本的にテレビがずっとついていて音が小さいという方がいても、煩い目障りと感じている方はいない為平安は保たれていると思われる。フロアは少し手狭に感じる事もあるが、不正不満なくなんとか過ごせている。	玄関ホールから1、2階すべてにクリスマスの飾りつけをするなど、施設の中でも季節を感じてもらえるようにしています。陽が射し込み明るい居間は利用者の寛ぐ場所となっています。秋には天井から手作りの葡萄を吊り下げて葡萄狩りに来た気分を味わえるようにするなど、利用者が楽しめるような工夫をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	上記にも記載したが、フロアが手狭な為、共用空間で独りの時間を確保する事が難しいかも知れないが、各々自由に過ごせてはいると考える。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室にはご家庭で使用していた家具や寝具類を持ってきてもらう事が基本となっているが、持ってきすぎて居室内での動線の確保が難しかったり、危険な場合にご家族に伝えて、持って帰ってもらったり、少し片づけさせてもらっている。	居室のクローゼットに衣類や日用品をきれいに収納できるように配慮しています。テレビや仏壇、愛用のイスを持ち込みんでいる人もいます。家族や友人が面会に来た時には居室で過ごしてもらえるようにしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	過介護や過支援にならないよう、自立と自律両側面を考えて、生活が出来るように努めている。		

事業所名	アクア淵野辺グループホーム
ユニット名	2階ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	レ	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	レ	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	レ	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		レ	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		レ	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	レ	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	レ	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		レ	2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
		レ	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		レ	2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		レ	2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		レ	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		レ	2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	アクア淵野辺の理念がある。長れで毎日声に出し唱和している。（事務所に貼ってある）。管理者、職員はリネンを元に日々の業務に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナの影響もあり交流は控えていたが、徐々に自治会の行事等に顔を出している。（現在は施設長または職員のみ）		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナの影響もあり、地域交流は控えている為、地域の人々に向け活かす機会がない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナの影響もあり、書面での会議のみ行っていた。が8月、9月は対面での会議を実施。状況の報告や交換を行い、世界アルツハイマーデーに向けてオレンジの折り紙で鶴折りにも参加した。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	管理者が行っているが、一般の職員は行っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	定期的に研修を行い、職員の理解を深め、身体拘束を行わないように努めている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的に研修を行い、祖yクインの理解を深め、適切なケアを行うよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者は行っているが、一般の職員は行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	都度十分な説明と意見を伺い、理解、納得をして頂けるよう図っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	施設玄関に意見箱を設置している。利用者様や家族の方とコミュニケーションを取り意見を伝えやすい関係作りに務めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者のフロア会議への参加、又、個人との話の場を設けるなど意見を聞き反映できるように努めている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	本社より定期的に施設状況を見に来て下さり、職員にも声を掛けている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	本社研修や法人外の研修情報も定期的に声が掛かり、職員が参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	本社研修等で他の施設(系列の他施設、別法人ではない)の職員と共に学び交流を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人への要望の聞き取りをしっかりと行い、ケアプランに沿って支援、コミュニケーションを図るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様の要望を伺い、計画書作成時に反映するように努め居ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	事前の情報やご本人からの聞き取りで、サービス提供に反映出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	キーパーソンのご家族様に了承を得た方との面会は受けていたが、現在はまだコロナの影響もあり、面会はほぼ家族のみである。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	都度の訴えやご家族との関わりを持って持てるように考えている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	職員が間に入り、会話を進めるなどしてコミュニケーションをとっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員が間に入り、会話を進めるなどしてコミュニケーションをとっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去時にカードやアルバムを作成し、渡したり、退去後も家族が立ち寄り易いように声を掛けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の関りの中で利用者の発せられる言葉や表情、行動から思いや意向を把握するように努めている。家族の訪問時にも希望や意向を聞き情報を得るようにする。難難な場合はゆっくり向き合い職員間の情報を共有して希望や意向を推測している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に得られた情報以外にも後から得られた情報などは記録に残し多くの情報を職員で共有するように努めている。日々の関りの中で、利用者が話す事や以前に利用していた施設等からの情報、家族との面談や訪問時に聞き取りをし把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の記録、申し送り、報告により、全職員でその日の変化の把握に努めている。一人ひとりの出来ること、持っている能力に注目し、それを活かせるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	利用者には日々の関りの中で思いや意見をくみ取り、家族には面会や訪問時に意向やアドバイスを頂き反映させるように努めている。職員間では会議や各担当者が中心で行うモニタリング等で利用者の心身状況の変化に合わせた支援についての意見交換に努めている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の利用者の記録は詳細に残している。職員間で情報の共有を徹底し、変化にすぐに対応するために1日2回の申し送りを実施している。またノート等の活用での連絡ができるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	1人ひとりのニーズで今までのないことであれば、本人・家族と相談しながら、事業所で可能な限り対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	出来る時に買い物に出かけたり、コロナのため外食は控えているが出前を頼んだりしている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人・家族の意向を配慮し、医療的ケアが受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職員が利用者の小さな変化に気が付けるように研鑽し、訪問診療時や施設看護師の来設備に相談できるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際をご家族からの情報や病院側からの情報をもとにニーズの把握や支援内容の再検討を職員全員で臨機応変に動けるように努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	嘱託医や家族と話を定期的に行う事で、本人の意思が確認できない場合には想定意思決定ができるように施設全体で取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	施設内研修にて実施している。急変や事故に対するマニュアルをフロアに掲示している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回、日中と夜間を想定しての避難訓練を実施している。自治会等の地域との関係性も大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	施設内研修にて勉強会を行い、日々のケアで本当に尊厳が保てているかの自己覚知に励んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	普段の会話の中から、利用者の困りごとや希望を聞き、解決出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	施設サービス計画書通り、利用者が望む生活を、本人のペースで支援できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自己決定が可能な方には自分で選んでもらうようにしているが、季節や気温とそぐわないようなお気に入りの服の場合は助言をしている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	本人のペースで食事を楽しんでもらうと共に、必要時には声を掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分が進まない利用者には、声かけを行い、少しでも摂取出来るように苦痛にならないよう細分化して少量ずつ提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	自身で行える方は自身で行い、介助が必要な方には介助をしている。義歯は夜間帯は預かり消毒をしている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	定時の声掛けを行い一人で行う事が危険な方に関してはプライバシーに配慮しつつ付き添う事もある。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分を多く摂取できるように支援をしたり、腹部マッサージ等を行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週に最低2回入浴が出来る様に支援をしている。体調不良時や本人の意向に沿って曜日は臨機応変に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	定期的なリネン交換や環境整備を行うと共に、夜間の定時巡視、夜間に起きてきてしまう方にも時間を伝えて少しでも休めるように支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬情の内容を確認しながら、事故のないように個人個人のケアを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	残存能力を生かした日常生活における家事やリハビリ等をかねたレクリエーションなどを提供できるように支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナにより一時期行っていなかったが、徐々に本人希望で散歩や買い物が出よう検討している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	認知症の症状が顕著に出ており、家族と職員において管理している。後見人がついている方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	季節の挨拶などの手紙を出している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	職員を中心に、利用者と一緒に掃除ができるように心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	同じテーブルの方を談話ができるように座席の位置を調整したり、コミュニケーションが苦手な方には職員が間に入る様に心がけている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人が過ごしやすい空間になる様に工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	1人ひとりの安全が確保できるように努めている。		

2023年度

事業所名 アクア淵野辺グループホーム

作成日 2024年 5月 8日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2-2	地域との交流はコロナ渦により疎遠気味であった。しかし、5類になったので、今後は地域との交流お深めていき、双方の行事に参加できるよう働きかけていきたい	年間を通して、地域との連携を深める意味でも交流を再開していく	<ul style="list-style-type: none"> ・双方の情報共有をし、参加できる行事にはお互いに参加をしていけるようにする。 ・施設からは年間行事予定表を提示する。 	9ヶ月
2	33-15	終末期や看取りといった日々の中では行わない業務を、職員に、その状況になった時、慌てず心のこもった介護ができるよう指導する	終末期における看取りの研修を行い、すべての職員が平均以上の介護が出来る様にする	<ul style="list-style-type: none"> ・週目付きにおける看取りの研修を行う。 	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月